

株主の皆様へ

第110期 報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

確かな技術で
未来をひらく
— 変革と挑戦 —



 **愛知電機株式会社**
AICHI ELECTRIC CO., LTD.

証券コード：6623

株主の皆様へ



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

第110期の報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

事業の概況

当期におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しました。海外経済につきましても回復基調で推移してきましたが、米中貿易摩擦の影響が顕在化してきたことなどにより、次第に減速感が強まってまいりました。

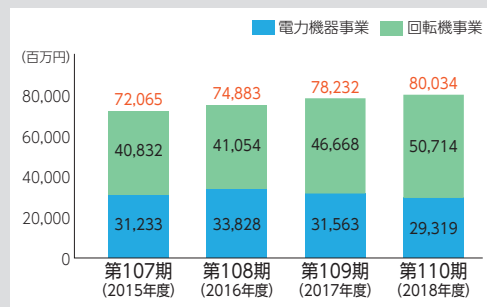
当社グループの経営環境につきましても、回転機事業では好調なエアコン・電子機器部品市場を背景に、ハーメティックモータやプリント配線板の需要が増加基調で推移しました。電力機器事業では主要顧客である電力会社が電力自由化に伴う競争激化の影響を受け、経営効率化

の動きを加速してまいりました。

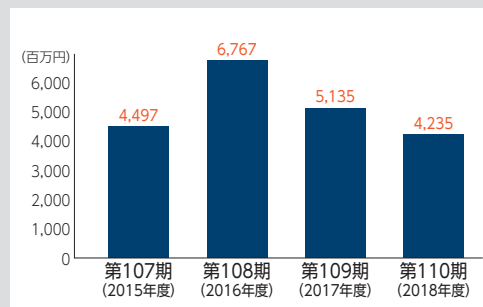
このような環境下、当社グループは中期経営計画2018「確かな技術で未来をひらく」の最終年度として経営目標(売上高800億円、経常利益45億円、ROA5.5%)の達成に努めるとともに、事業・製品の拡大強化と持続的成長の基盤強化に取り組んでまいりました。電力機器事業では配電系統高度化機器などの新製品開発を進めるとともに、トッランナー変圧器やバイオガス発電システムの販促活動に注力してまいりました。回転機事業ではハーメティックモータやプリント配線板の生産能力増強に努める一方、各種モータやアクチエータの顧客開拓などに取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高につきましても、回転機事業の伸長により前期比2.3%増の800億3千4百万円となりましたが、利益につきましても、回転機事業の原価率悪化と電力機器事業の売上減の影響により減益となりました。営業利益は42億3千5百万円(前期比17.5%減)、経常

売上高 800億円



営業利益 42億円



利益は48億5千2百万円(前期比4.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は31億9百万円(前期比7.2%減)となりました。

配当について

期末の配当金につきましては、1株につき45円とさせていただきます。これにより、中間配当金を加えました通期の配当金は、1株につき90円となります。

今後の見通し

今後につきましては、電力機器事業では、PCB関連特需が終了することに加え、主要顧客である電力会社において託送料金抑制を背景に設備の延命化や合理化が進むことが予想されます。回転機事業では、車載用モータなどの需要拡大が期待されますが、顧客の内製化進行が懸念されます。このように当社グループを取り巻く環境は、大きく変化し厳しさを増しております。

こうした環境変化に迅速に対処するた

め、当社は2019年4月から2024年3月の5年間を対象とした新たな中期経営計画2023「確かな技術で未来をひらくー変革と挑戦ー」を策定いたしました。この計画の4つの基本方針「新製品・新事業への挑戦」「既存事業の競争力強化」「海外事業の拡大展開」「経営基盤の強化」のもと、重点施策を着実に実行し、さらなる成長を目指してまいります。

このたび当社は、グループ経営強化の一環として、ハーメティックモーター株式会社を2020年4月1日に吸収合併することといたしました。なお、詳細につきましては当社ホームページをご覧ください。

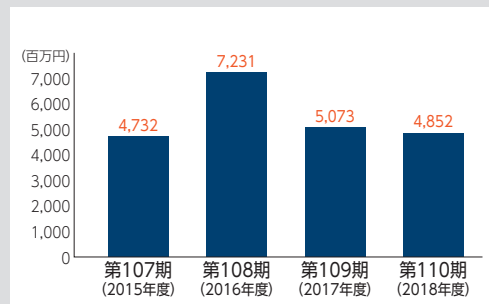
株主の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年6月

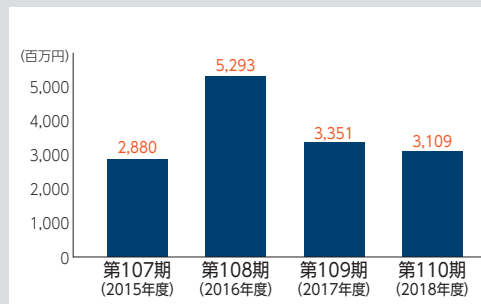
代表取締役社長

佐藤 徹

経常利益 48億円



親会社株主に帰属する当期純利益 31億円



事業別の概況

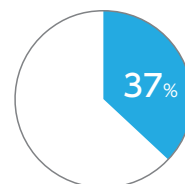
■電力機器事業

売上高293億円

事業内容

各種電力用変圧器、電力用保護制御装置、再生可能エネルギー関連装置など電力機器の設計・製造および海外での変電所プラント工事を通じ、電力インフラを支えています。

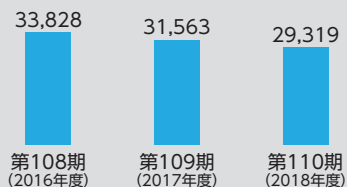
売上高構成比



当期の概況

トップランナー変圧器の売上が伸びましたが、配電線自動電圧調整器や柱上変圧器などの売上減が響き、減収減益となりました。売上高は293億1千9百万円(前期比7.1%減)、セグメント利益は41億1千4百万円(前期比18.7%減)となりました。

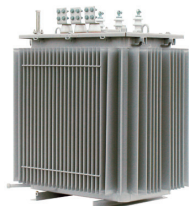
売上高推移(単位:百万円)



主要製品



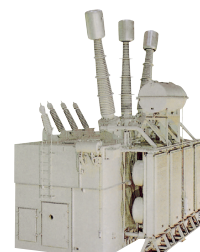
柱上変圧器



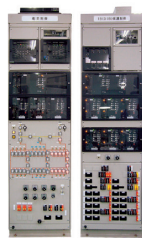
トップランナー変圧器



自動電圧調整器



負荷時タップ切換変圧器



デジタル式保護制御装置



パワーコンディショナ



プラント工事

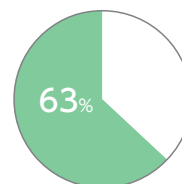
■回転機事業

売上高507億円

事業内容

電動ベッド用アクチエータ・駆動用制御装置、エアコン用ハーメティックモータなどの各種小型モータ、プリント配線板、シャッター開閉機など、身近で活躍する製品を社会に提供しています。

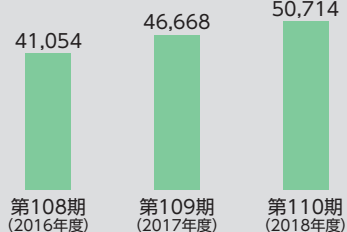
売上高構成比



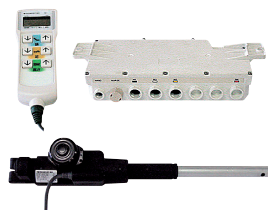
当期の概況

ハーメティックモータやプリント配線板が好調に推移し、売上高は増収となりましたが、利益面では原材料価格の上昇や売上構成の変化の影響を受け、前期を若干下回りました。売上高は507億1千4百万円(前期比8.7%増)、セグメント利益は16億6千4百万円(前期比3.5%減)となりました。

売上高推移(単位:百万円)



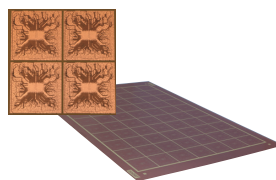
主要製品



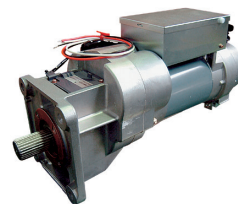
アクチエータ・駆動用制御装置



ハーメティックモータ



プリント配線板



シャッター開閉機



ボイラ



粉体混合機・乾燥機



畜舎用換気扇・コントローラ

決算の報告

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	当期末 2019年3月31日現在	前期末 2018年3月31日現在	負債純資産の部	当期末 2019年3月31日現在	前期末 2018年3月31日現在
流動資産	64,885	63,799	負債の部		
固定資産	25,270	24,871	流動負債	28,518	27,741
有形固定資産	15,241	15,431	固定負債	7,962	9,552
無形固定資産	182	165	負債合計	36,481	37,294
投資その他の資産	9,847	9,274	純資産の部		
			株主資本	50,556	48,437
			その他の包括利益累計額	1,687	2,341
			非支配株主持分	1,430	598
			純資産合計	53,674	51,377
資産合計	90,156	88,671	負債純資産合計	90,156	88,671

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当 期 2018年4月 1日から 2019年3月31日まで	前 期 2017年4月 1日から 2018年3月31日まで
売上高	80,034	78,232
売上原価	68,706	65,434
売上総利益	11,327	12,798
販売費及び一般管理費	7,091	7,662
営業利益	4,235	5,135
営業外収益	819	500
営業外費用	203	563
経常利益	4,852	5,073
特別利益	19	20
特別損失	325	321
税金等調整前当期純利益	4,546	4,772
法人税、住民税及び事業税	1,149	1,464
法人税等調整額	246	△ 59
当期純利益	3,149	3,367
非支配株主に帰属する当期純利益	39	15
親会社株主に帰属する当期純利益	3,109	3,351

個別貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	当期末 2019年3月31日現在	前期末 2018年3月31日現在	負債純資産の部	当期末 2019年3月31日現在	前期末 2018年3月31日現在
流動資産	30,975	33,933	負債の部		
固定資産	23,290	20,478	流動負債	12,356	12,436
有形固定資産	7,221	7,490	固定負債	2,440	3,342
無形固定資産	48	36	負債合計	14,797	15,778
投資その他の資産	16,020	12,951	純資産の部		
			株主資本	38,377	37,380
			評価・換算差額等	1,090	1,252
			純資産合計	39,467	38,632
資産合計	54,265	54,411	負債純資産合計	54,265	54,411

個別損益計算書

(単位:百万円)

	当 期 2018年4月1日から 2019年3月31日まで	前 期 2017年4月1日から 2018年3月31日まで
売上高	34,964	37,453
売上原価	28,564	30,184
売上総利益	6,399	7,269
販売費及び一般管理費	3,912	3,763
営業利益	2,487	3,506
営業外収益	582	509
営業外費用	64	81
経常利益	3,005	3,933
特別利益	18	508
特別損失	317	150
税引前当期純利益	2,706	4,291
法人税、住民税及び事業税	818	1,121
法人税等調整額	36	15
当期純利益	1,851	3,154

経営

「中期経営計画2023～確かな技術で未来をひらく～変革と挑戦」がスタート

2019年度から2023年度までの5年間の新中期経営計画を策定し、本年4月から活動を開始しました。

「新製品・新事業への挑戦」、「既存事業の競争力強化」、「海外事業の拡大展開」、「経営基盤の強化」を基本方針に、2023年度に連結売上高1,000億円、連結経常利益60億円、ROA6.0%以上の達成を目指していきます。



電力機器関連

パームヤシ油入負荷時タップ切換変圧器の納入

変圧器の絶縁油については、近年、地球温暖化防止および環境負荷低減への意識の高まりから、化石燃料である鉱油から植物油であるパームヤシ油の使用が注目されています。当社では、既にパームヤシ油入変圧器を開発して販売しています。今回、その技術を負荷時タップ切換器に活用してパームヤシ油入負荷時タップ切換変圧器を開発し、東北電力(株)殿へ納入しました。

本製品の特長は次のとおりです。

- ・絶縁油に、生分解性が良好なパームヤシ油を使用しており、万一、漏油した場合でも、微生物によって容易に水と二酸化炭素に分解されるため、土壤汚染の心配はありません。
- ・パームヤシ油を使用することで、カーボンニュートラル効果によりCO₂削減が期待できます。
- ・シール部(ガスケット部)以外は、従来品と同一の材料、同一の構造で構成しており、価格上昇を最小限に抑えることができました。
- ・負荷時タップ切換器に、メンテナンスコストが安価な当社独自の真空バルブ式(1バルブ式)を採用しています。

今回の実績を生かし、電力会社、産業分野への積極的な拡販に努めていきます。



電力機器関連

次世代高圧自動電圧調整器(次世代SVR)の開発

近年、太陽光発電などの分散型電源の接続により、電力の逆潮流が発生し、問題となっています。この問題に対応するため、変電所方向判定機能を付加した逆潮流対応型の次世代高圧自動電圧調整器(次世代SVR)を開発しました。

変電所方向判定機能を付加したことにより、電力潮流方向に関係なく変電所側と負荷側の区別ができるため、太陽光発電などが接続された配電線においても適切な電圧調整ができます。

また、機構部全体の軽量化と偏心荷重の低減を図りました。これにより、従来は2本の電柱に装柱していましたが、本製品は1本の電柱に装柱することができ、用地事情が厳しい市街地でも設置できるようになりました。

加えて、容易にメンテナンスができるよう、機構部と制御部・通信部を分離しました。

さらに、遠方からの配電線の電圧・電流情報の取得や、リアルタイムの整定値変更を実現するため、遠隔計測・制御機能を追加しました。

このように、本製品では、配電線全体の電圧を適切な管理値に制御することが可能となりました。今後、電力会社を中心に拡販に向けたPRを進めていきます。



電力機器関連

第三世代デジタル型配電変電所用保護・制御盤(D配盤)の開発

デジタル型配電変電所用保護・制御盤(D配盤)は、電力会社の配電用変電所に設置し、配電機器の保護や監視・制御を行う装置です。

従来の第二世代D配盤は導入から十数年が経過し、太陽光発電などの分散型電源への対応、リレー整定値などの遠隔制御機能の充実、省スペース化など、お客様から追加要望が高まっていました。

このような背景から、第三世代D配盤を中部電力(株)殿と共同で開発し、2018年12月、同社に本製品を納入し、運用を開始しています。



電力機器関連

モザンビーク共和国での変電所新設工事が完工

モザンビーク共和国の北部に位置するナンプラ州ナミアロ地区で、2016年9月から進めてきたナミアロ変電所新設工事が2019年1月に完工しました。

本件は政府開発援助(ODA)案件で、当社は変圧器などの設備の設計・製作および工事部材の調達ならびに現地での建設工事および調整試験を行いました。また、同州内の既設2変電所(ナンプラセントラル変電所およびナンプラ220変電所)と新設したナミアロ変電所に制御監視システム(SCADAシステム(※))を導入し、ナンプラセントラル変電所からナンプラ220変電所およびナミアロ変電所の遠方監視制御が行えるようになりました。

工事期間中に洪水が発生するなど厳しい自然環境の中、工期確保に苦労しましたが、無事に完工することができました。

今後も、アフリカ、東南アジア、島しょ国などの電力インフラ整備に積極的に貢献していきます。



ナミアロ変電所の完成風景

(※) SCADAシステム：Supervisory Control And Data Acquisitionシステムの略。

回転機関連

介護ベッド用アクチエータの生産能力増強

介護ベッド用アクチエータの生産能力増強を目的に、生産ラインの自動化設備を導入し、2019年3月より稼働を開始しました。

今回新たに、グリース塗布装置、アクチエータ搬送装置の2設備を導入しました。グリース塗布装置は、従来手作業で行っていた駆動部品の組付けとグリース塗布を自動で行う設備です。アクチエータ搬送装置は、組み上がったアクチエータを自動搬送して、検査装置へセッティングする設備です。

これらの設備の導入により、作業工数を短縮し、生産能力25%アップを目指しています。

今後もアクチエータ生産能力の向上を図るため、さらなる改善を進めていきます。



アクチエータ搬送装置

会社概要・株式の状況

■会社概要 (2019年3月31日現在)

愛知電機株式会社 AICHI ELECTRIC CO., LTD.

設立年月日 1942年5月27日
資本金 40億53百万円
従業員数 840名(連結:2,370名)
本社所在地 〒486-8666
愛知県春日井市愛知町1番地
電話 0568-31-1111

■役員の状況 (2019年6月27日現在)

代表取締役社長	佐藤 徹
常務取締役	小林 和郎
常務取締役	宮川 利之
取締役	野々村 勝巳
取締役	山下 直治
取締役	田島 久嗣
取締役	高橋 順一
取締役	垣原 正樹
取締役	須田 芳和
取締役	加藤 忍
取締役(社外)	天野 望
取締役(社外)	瀬尾 英重
常勤監査役	細江 秀喜
監査役(社外)	松原 和弘
監査役(社外)	堀 雅寿

■株式の状況 (2019年3月31日現在)

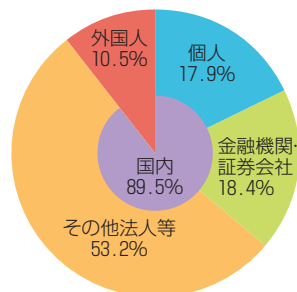
発行可能株式総数 23,912,200株
発行済株式の総数 9,500,000株
株主数 3,234名

大株主 (上位10位)

	持株数 (千株)	出資比率 (%)
中部電力株式会社	2,326	24.5
TSUCHIYA株式会社	1,000	10.5
古河電気工業株式会社	807	8.5
株式会社三菱UFJ銀行	446	4.7
ピー・イー・フォー・フィデリティロープライズストック ファンド(フィナンシャルオールセクターサポーターフォリオ)	323	3.4
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	303	3.1
株式会社川口興産	200	2.1
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシー リフィデリティファンズ	192	2.0
株式会社光通信	186	1.9
明治安田生命保険相互会社	175	1.8

注1. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。
注2. 出資比率は自己株式(4,065株)を控除して計算しています。

所有者別株式分布状況



株主メモ

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 名古屋市中区栄三丁目15番33号
照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.aichidenki.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、名古屋市において発行する中日新聞に掲載して行います。

1 単元未満株式（100株に満たない株式）の 買取・買増制度のご案内

ご所有の1単元未満株式を当社に買取または買増請求できる制度があります。ご希望の株主様は下記「各種お手続きのお申し出先」にお申し出ください。

各種お手続きのお申し出先

（お名前・ご住所の変更、単元未満株式の買取・買増等）

証券会社に口座を開設されている株主様

→お取引先の証券会社にお申し出ください。

証券会社に口座を開設されていない株主様

→三井住友信託銀行にお申し出ください。

未払い配当金の支払について

三井住友信託銀行にお申し出ください。

確かな技術で未来をひらく ―変革と挑戦―

よい物を創る、よい人を創る、よい関係を創る、価値ある会社

 **愛知電機株式会社**
AICHI ELECTRIC CO., LTD.